

令和4(2022)年度 年間授業計画									
教科・科目			教科 生物基礎		2 単位				
対象学年・組			1年生(含む特進)		履修対象				
教科書 (出版社)			i版 生物基礎 (啓林館)		ESSENCE NOTE 生物基礎 (啓林館)				
学習目標 【観点別】			○観察や実験を通じ、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する【知識及び技能】 ○グループ学習等を通じ、論理的思考や説明能力を養う【思考力、判断力、表現力等】 ○身近な現象に対して疑問を持ち、主体的に探究しようとする態度を養う【学びに向かう力、人間性等】						
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準		知	思	態
1	前半	12 第1部生物の特徴 第1章生物の特徴	①生物の共通性と系統 ②細胞の構造 ③代謝とエネルギー		①生物の共通性について、系統樹を利用して理解できるか。 ②真核生物と原核生物の共通点と相違点について理解できているか。 ③化学エネルギー、ATP、酵素等の代謝に関連する事象を理解しているか。		○	○	○
	後半	12 第2部遺伝子とその働き 第2章遺伝子とその働き	①DNAの構造と遺伝子 ②DNAの複製と細胞周期 ③転写と翻訳		①DNAが遺伝子の本体であることと、その構造について理解できるか。 ②細胞分裂とそれに先立つDNAの複製について理解できるか。 ③タンパク合成について理解できているか。		○	○	○
2	前半	14 第3部ヒトの体の調節 第3章神経系と内分泌系による調節 第4章免疫	①恒常性と体液 ②自律神経による調節 ③ホルモンによる調節 ④血糖濃度と浸透圧の調節		①恒常性の意味と、体液によって恒常性が維持されていることを理解できるか。 ②③自律神経およびホルモンにより恒常性が維持される仕組みを理解できるか。 ④体液の濃度が適切に調節される仕組みを理解できるか。		○	○	○
	後半	14 第3部ヒトの体の調節 第4章免疫 第4部生物の多様性と生態系 第5章植生と遷移	①生体防御の全体像 ②自然免疫と獲得免疫 ③抗体と免疫記憶 ④自然環境と遷移 ⑤日本と世界のバイオーム		①②生体防御の全体像及び、自然免疫と獲得免疫について理解できるか。 ③免疫記憶の仕組みについて理解し、医療への応用について理解できるか。 ④⑤自然環境の移り変わりと、世界のバイオームについて理解できるか。		○	○	○
3	18	第4部生物の多様性と生態系 第6章生態系とその保全	①種多様性と食物連鎖 ②生態系のバランスと人間活動 ③外来生物と生態系の関係		①生物多様性と、食物連鎖について高度なレベルで理解できるか。 ②人間の活動が生態系に与える影響について深く考えることができるか。 ③日本において外来生物が環境に与えている影響と、世界の状況についても同様に理解することができるか。		○	○	○
評価の観点 (評価基準)			○授業や実験、観察について、主体的に取り組んでいるか。 ○生物学的なものの見方・考え方を身に付けられたか。(基礎・基本事項の習得) ○生物学的な現象を自分の言葉で論理的に人に伝えることができるか。						
評価の方法			定期考査、授業態度、提出物等により評価						
学習の手引き			○日々の学習を大切に、授業に積極的に参加すること。 ○身の周りの様々な生物や生理学的現象に対し疑問を持ち、科学的な見方や考え方で事象を捉えるようにすること。 ○仮説を立てながら観察・実験に主体的に参加し、探究する態度を持つこと。						
授業担当者			五十畑 貴生(1～3組) 林 美奈子(4～8組)						